

渡波中学校建設基本構想（素案）に関する説明会について

- 1 日 時：平成25年11月29日（金）午後6時30分～午後7時30分
- 2 場 所：渡波公民館大ホール
- 3 参加者数：13人
- 4 説明事項：基本構想の性格と検討員会の体制等を説明した後、基本構想（素案）について説明した。（説明資料は別紙のとおり）
- 5 質疑等：
 - 問1 市道伊原津一・渡波町一丁目線（牧山ト初～流留）以外の道路には歩道がない。開校までに整備されるのか。
答 区画整理事業地内の道路は新たに整備される。中学校までの通学路は、周辺の道路環境を見据えながら検討していきたい。
 - 問2 震災時、渡波小学校の体育館は床下浸水した。新しい体育館は2階から作るべき。
答 階高等は今後の検討となるが、移転する場所は防潮堤等の整備により、津波浸水シミュレーション上で津波の心配がない地域である。意見は設計において検討したい。
 - 問3 「地域への開放」とは、どのようなものか。
答 地域の方々が気軽に学校を訪れ、生徒と触れ合えることをイメージしている。
 - 問4 地域開放における不審者対策はどうか？
答 セキュリティ面での課題はあると考えている。設計や運用面で検証していく。
 - 問5 市総合体育館をバトミントンで利用しているが、そういうことが学校でもできるようになるのか？ また、会合を行えるような貸し出しスペースはあるか？
答 体育館の開放は授業との兼ね合いもあり、運用面で調整していくこととなる。会合を行えるような貸し出しスペースについては、要望として設計で検討したい。
 - 問6 グラウンドについて、野球、サッカー、ソフトボール等が同時に練習できるスペースは確保されているか？
答 敷地面積は2万㎡程度。具体的な配置等はこれからだが、全ての競技が干渉することなく同時に活動することは難しい。
 - 問7 被災前と同規模のグラウンドでは狭い。用事で訪問した成田中学校（富谷町）のグラウンドは広大だった。これから設計するのならば、以前より広いグラウンドを望む。
答 敷地面積2万㎡で計画している。被災市街地復興土地区画整理事業の事業用地内での整備であり、被災者への居住地優先という観点からも、これ以上面積は増やせない。校舎等の配置を工夫することで、グラウンドを有効に活用できるよう検討したい。